

【科目名】 学習導入演習	【単位数】 2単位	【科目区分】 アカデミック・コモンベシックス 基礎科目(必修科目)
【担当者】 小林 直樹	【オフィス・アワー】 時間: 場所:	【授業の方法】 演習＋講義形式
【科目の概要】 大学における講義等は、高校までの授業とは異なります。つまり、授業の内容を理解して定期試験を受けて終わるものではありません。大学では、講義等で学んだことを更に深く掘り下げ、発展的に学んだことを発表(レポートや論文の作成)・意見交換をおこないます。いわゆる、積極的・能動的な「学び」である「探求」や「研究」をおこないます。 入学直後は何事も初めて経験することばかりで戸惑い・困惑し、不安を感じると思います。そこで、この演習は、そのような不安を少しでも解消し、大学における「学び」を徐々に自分のものにできるよう「アシスト(支援)」する内容となっています。具体的には、受講の仕方、課題提出のための図書館における文献や資料の調べ方、データベースの利活用、レポートを作成する際の「テーマ」や「問い」の立て方、構成やパラグラフの作り方、文献や資料の参照方法(脚注や引用方法に限らず、剽窃等の著作権侵害の注意喚起)など、大学における「学び」の方法である「スキル(技法)」を演習で修得します。 なお、必要に応じて、例えばレクリエーションなどのゲーム(アイス・ブレイク)やグループ発表も考えています。また、進捗状況によっては、授業スケジュールおよびその内容について若干の変更もありえます。		
【授業科目群・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 演習は大学における「学び」の「アシスト」となります。そして、演習を通じて身につけた「スキル」は、講義や演習等を受講する際の有用な力となり、就職活動や、将来就くかもしれない職業にも活用・応用できる力となるでしょう。つまり、 ① 与えられた課題等について自分で調査し、正確に資料を読む力 ② 多くの資料に目を通して物事を客観的・批判的に検証する力 ③ 自分の考えを、客観的・論理的に、かつ正確に他者に伝える(プレゼンテーション)力 です。 短時間で「スキル」を修得することは難しく、各回の演習を通じて、一人一人の個性に応じつつも根気よく地道な努力の積み重ねが必要になると思います。おそらく、この演習を受けたあとの積み重ねが必要になると思います。 ただ、「スキル」を身につけると、変化に富んだ時代を生き抜く「ツール(道具)」になることは疑いがないと思います。		
【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】 以下の中間目標と最終目標を目指してほしいと思います。 【中間目標】 <ul style="list-style-type: none"> • 大学における「学び」を理解したうえで、受講方法を身につけ、自学自習できるようになること。 • 不明な点やわからない点について図書館等において調べ、更に関心を抱いて調査することができるようになること。 • 多くの資料を通じて、物事や社会現象を客観的・批判的にみることができるようになること。 【最終目標】 <ul style="list-style-type: none"> • 自分で「テーマ」や「問い」を設定できること。 • 「テーマ」や「問い」について、調査し、文献や資料を読み、客観的かつ批判的に検証することができるようになること。 • 調査を通じて得た文献や資料をもとに、自分自身の考えを、客観的・論理的に、正確に他者に伝えることができるようになること(プレゼンやレポートの作成)。 		
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】		
【教科書】 とくに指定しません。 必要に応じて、参考となる書籍を紹介する予定です。		
【指定図書】 適宜紹介する予定です。		
【参考書】 世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック[第6訂版]』(世界思想社、2024) 佐藤望ほか『アカデミック・スキルズ[第3版]——大学生のための知的技法入門』(慶應義塾大学出版会、2020) 田中共子『よくわかる学びの技法[第3版]』(ミネルヴァ書房、2018)		

<p>〔前提科目〕 ありません。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 課題とレポートを総合的に評価します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 A 評価 80 点以上 B 評価 70 点以上 80 点未満 C 評価 60 点以上 70 点未満 D 評価 50 点以上 60 点未満 F 評価 50 点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 高校までとは異なり、大学における「学び」は、自身の都合で時間割を作れるなど、融通がききます。また、日々の生活において学校や教員の拘束はそれほど強くなく、自由を感じることが少なくありません。のびのびと、自分のペースで自己実現をはかることができるでしょう。 しかし、時間は有限です。時間を浪費せずに有効かつ有意義に活用しないと、望まない結果を招くでしょう。特に、成績低迷にとどまらず、卒業さえ危うくなることが懸念されます。そのような最悪な事態を避けるには、単に講義に出席するだけでは不十分です(講義を受けただけでは内容を理解するのは難しい)。予習と復習に十分に時間をかけ、自分の責任で受講の準備をしなければなりません。そのために、わからないことは図書館等で調べたり、オフィス・アワーを活用して教員に質問したり、「学び」ための工夫を自分でしなければなりません。厳しい指摘になりますが、大学における「学び」とは、他人ではなく、自分自身の責任(自己責任)のもとでの「学び」が重視されるということ意味すると思います。 大学の4年間は、社会人になる準備期間といえます。自由な時間を有意義に活用し、様々な意見や考え方に接し、知を吸収し、自分の考えを持つ自律した人として成長することを切に願っています。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):「学習導入演習」のガイダンス 内 容: 「学習導入演習」の進め方について説明。自己紹介など。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):大学における「学び」とは何か。 内 容: 高校までの授業と大学における「講義」や「演習」との違いに気づき、大学の「学び」について知り、理解を深める。簡単なグループワークを通じて理解を深めます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):大学における「学び」(グループワーク) 内 容: 第2回につづき、簡単なグループワークを通じて大学における「学び」を体験してみます。具体的にはグループワークの作法やその目的、効果を体験し、グループワークの意義を理解します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):図書館の活用 内 容: インターネット上の情報のみに頼らない、図書館にある文献(専門書など)や雑誌や新聞の記事の調査といった情報収集の基礎を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):図書館の活用の実践 内 容: 第4回の図書館の活用で学んだスキルを駆使して、自分の興味や関心のある文献や資料を、実際に探し、「テーマ」や「問い」を設定します。各自で設定した「テーマ」や「問い」は、最終目標であるプレゼンテーションやレポートの提出につながります。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):文献を読む(その1)</p> <p>内 容: 文献(専門書など)を読むにあたって、必要なスキル、つまり論理的・批判的思考について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):文献を読む(その2)</p> <p>内 容: 第6回につづき、文献(専門書など)を読むにあたって、必要なスキル、つまり論理的・批判的思考や、要約について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):文献を読む(その3)</p> <p>内 容: 第7回につづき、文献(専門書など)を読むにあたって、必要なスキル、つまり論理的・批判的思考や要約、さらには文献を参考にして引用する場合の注のつけかたや引用方法、著作権を侵害し、剽窃とならぬよう注意すべき点などの基礎的なルールについても。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):グループ・ディスカッション(その1)</p> <p>内 容: 教員が提示した「テーマ」や「問い」について、グループで調査し、グループ・ディスカッションを通じて出された結論について報告をする準備をします。その際、第1回から第8回まで学んだことを最大限活用します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):グループ・ディスカッション(その2)</p> <p>内 容: 第9回に続き、教員が提示した「テーマ」や「問い」について、グループで調査し、グループ・ディスカッションを通じて出された結論について、各グループが報告をします。加えて質疑応答を行います。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションの準備</p> <p>内 容: 第4回以降、自分で考え、設定した「テーマ」や「問い」をまとめ、配布用のレジュメを作成し、またスライドを作成し、第12回および第13回のプレゼンテーションの準備をします。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーション(その1)</p> <p>内 容: 第4回以降、自分で考え、設定した「テーマ」や「問い」についてまとめ、その概要を発表し、他者との質疑応答を通じて、自分の「テーマ」や「問い」についての考え方を検証します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーション(その2)</p> <p>内 容: 第12回につづき、自分の設定した「テーマ」や「問い」の概要を発表し、他者との質疑応答を通じて、自分の「テーマ」や「問い」についての考え方を検証します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポートの作成(その1)</p> <p>内 容: プレゼンテーションを通じて、検証した自分の「テーマ」や「問い」についての考え方を文章としてまとめ、レポートを作成します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポートの作成(その2)</p> <p>内 容: 第14回につづき、プレゼンテーションを通じて、検証した自分の「テーマ」や「問い」についての考え方を文章としてまとめ、レポートを作成します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
試験	レポートの提出